



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。
…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX : 0467-47-1164
木曜を除く10時~16時 Web URL : <http://www.yamasaki-yato.sakura.ne.jp>
Eメールアドレス : ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

6/10 生態系保全班 水路の草刈り



生きものたちを守るためにも！



オス



メス

アサヒナカワトンボ

カーッと照りつける太陽と、ザァーッと降りしきる雨が交互にやってきて、稲の苗は青々と伸び、畑の作物も丈高く成長しています。平行して、谷戸の緑もどんどん迫ってきます。土手の草は根っこをしっかりと残してさっぱりと刈り、外来種の雑草は根っこから引き抜き、平地の草は昆虫が生息できる領域を残して刈ります。夏の間は毎週欠かせない草刈り、草抜き、草取りにも、きめ細かな配慮で臨んでいるのが私たちボランティアです。一緒に作業すると生きもの観察もできますよ。

山崎の夏まつりに参加

7月20日(土)開催

地元の伝統的なお祭りです。当会からは毎年、御輿の屋根の上の鳳(おおどり)にくわえさせる稲の提供と、御輿の担ぎ手として参加しています。

もくじ

☆各班からのお知らせ→
2・3p ☆谷戸の自然だより
→p4 ☆谷戸往往来→5p
☆谷戸の体験学習→p6・7 ☆
7~9月日程表(裏表紙)

各班からのお知らせ

田んぼ班

★7/5(日) 田の草取り・苗床片付け

★12(日)、19(日)、25(土)、26(日) 田の草取り

6月初旬にたくさんの参加者に助けられて、田植えも無事に終わりました。今年はいちの苗が足りず、一部の田んぼはもちに切り替えました。うるち米の方が苗の育ちが悪かったのと、苗床の配分をちょっと間違えたためです。

7、8月は田んぼの水張りに気を配りつつ、夏の暑さの中、涼しげな水音を聞きながらの田の草取りです。



6/6 田植え

畑班

★7/5(日) ごまの種蒔き ★12(日) さといもの草取り・土寄せ

★19(日) 小豆の種蒔き ★26(日) 落花生の草取り・土寄せ



6/7 さつまいもの植付け

初春の不安定な天候続きにもかかわらず、5月からの好天続きのお陰で、畑の作物も順調に育ち、大麦・小麦の収穫も無事すみました。これからは今年度に蒔いた種・植付けた苗が、どんどん成長してくるため、草取り・土寄せの仕事が欠かせません。

忙しい合間に、春に蒔いた夏野菜の収穫がてら、ミニトマトなどでちょっと口を潤しつつ、暑い夏の谷戸の景色を眺めながらの休憩も楽しみの一つです。

雑木林管理班

★7/12(日) 土手保全のための草刈り

★19(日) 草刈りをして堆肥を作る



6/14 土手の草刈り

初夏を迎え、ほぼ毎週、雑木林内の下草刈り、土手、水路の草刈りを行う季節になりました。一度草刈りした場所でも、1ヵ月も経てばほぼ元通りと思えるほど、雑草の成長は早く、自然のエネルギーの凄さを感じます。

雑草は堆肥置き場に集め、田畑に使用する堆肥作りの原料となるので、炎天下の作業ですが、とても重要です。

農芸班 ★7/24(金) 梅干し作り 2 (赤ジソ仕込み)

6/12に行われた梅干し作りでは、幸運にも活動開始と同時に雨足が止み、竹竿を使って梅の実を落とす作業にも元気が湧きました。葉と葉の隙間から、丸々とした梅の実を見つけると、なんとしても手に入れたいという衝動にかられ、参加者といっしょに自然の恵みを感じながらの収穫となりました。瑞々しい梅の実の下漬けを終え、7月中旬には赤ジソで本漬けをします。



6/12 梅の収穫



自然遊び班



6/21 里山探検隊

5/10(日) こども里山一日体験「竹馬・竹笛で昔あそび」が行われ、昔あそび名人のおじさんの手ほどきで、竹馬や竹笛・竹鉄砲を作って遊びました。「作り方も遊び方も知らないの、このような企画があってありがたい」「竹でこんなにさまざまな遊びができるって、すごい」という感想も聞かれ、爽やかな風の吹く谷戸でのんびりとした1日を親子で過ごしていました。

里山探検隊1回・2回(全6回)が終了しました。今年は小学1年生から6年生まで28人の子どもたちが集まりました。1回目5/17(日)「谷戸歩き」では、春の谷戸の生きもの、草木にふれ合いながら歩き、子ども同士の交流も育まれていました。2回目6/21(日)「谷戸しごと」では、谷戸原産の「たのくろ豆(大豆)」の種蒔き、トロロアオイの草取りをしました。時折、雨が降る中「6/20前後に種まきをする」という伝統を守ることができました。子どもたちは、ひと仕事を終えたあとで、たのくろ豆ご飯を味わいました。

☆ 子どもお泊り里山体験(対象4~6年生) ☆

7月26日(日)~27日(月)

農作業、かまどで炊飯など、昔ながらの暮らしを体験します。

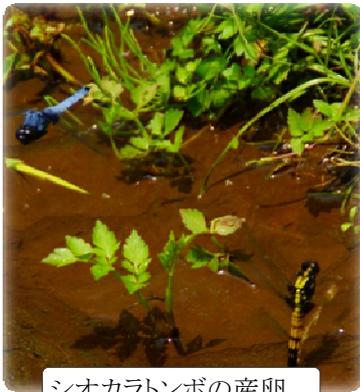
詳細は「広報かまくら」7月1日号に掲載します。(公財)鎌倉市公園協会にて申込受付を行います。



生態系保全班

★7/4(土)、18(土) 夜の自然観察 ★22(水) 水路の生きものの観察

シオカラトンボが湿地で産卵し、田んぼに生息するコバネイナゴの幼虫の姿を見ることができました。水面が草で覆われないように湿地を田んぼのような環境に保全している成果だと思います。



シオカラトンボの産卵

小段谷戸のゲンジボタルが少ないように感じました。はっきりとした原因はわかりません。田畑や湿地、小川が今まで通りなら、守れるといった単純なことではないようです。

保全方法も手探りです。最善の方法を見つけていきたいと、メンバーと奮闘しています。



コバネイナゴの幼虫



植物育成班

★8/19(水) ツル植物の除去作業

クズやカナムグラの除去を今年も始めました。大きくなり、湿地や土手を覆う前に、少しでも多く除去したいと思っています。また、土手の草刈りを行いながら、ワレモコウ、ヤマユリ、チガヤなど秋に咲く野草と、草や環境を好む生きものを観察します。チガヤにショウリョウバッタモドキを見つけたときは、保全の成果を実感します。



6/17 クズの除去作業



チガヤの穂

谷戸の自然だより

～生態系から見た、里山の手入れ 水路その2～

③ 谷戸の水路の手入れと生きもの

昔から行われている谷戸の水路の手入れに生態系保全の考え方を加えることで、狭い面積の“都市型の里山”でも貴重な生きものを守ることができます。

水路の草刈り 水路が草木で覆われないよう草刈りをすると、水面が露出するのでトンボなどが集まって産卵できるようになります。水路が明るくなると、珪藻(けいそう)などの植物プランクトンが増え、それを餌にする貝類をはじめ生きものが増えます。

水路の掃除や泥上げ 大雨のときに川の氾濫を防いだり、田んぼに使う水を確保するために、流れを妨げる枝葉を掃除したり、泥上げをすることがあります。流量が少ない水路の場合、放任すると水路が湿地のようになってしまうことがあり、いつの間にか水路の生きものが棲めなくなってしまうこともあります。流路を保全し、水路の深さを確保することで、生きものが棲みやすくなります

④ 水路の手入れで気を付けたいこと

昔のように広い面積がない、現在の山崎の谷戸では、生きものへの配慮をしながら、昔ながらの作業を継続することが大切です。特に水路は狭い場所なので、わずかな配慮の有無が影響します。

生態系保全から見た水路の草刈り 草刈りをする場合は、全面を刈らずに所々草や木を残し、日陰(明るい日陰)になる部分も確保します。水路の日照を確保すると言っても、木漏れ日が入る、明るい日陰の状態が理想です。つまり、水路に覆いかぶさった草やササは切る必要がありますが、大きな樹木が作る日陰は問題ありません。むしろ草が生えにくくなって、水路の環境が安定するようです。

生態系保全から見た水路の掃除や泥上げ 水路にたまった枝葉の部分に、たくさんの生きものが暮らしています。必要のないときは掃除を控えめにした方がよいと思います。掃除をした枝葉や泥は、水路沿いに置いてやると、ゴミや泥の中にある生物が脱出できます。冬季に水路を掘り下げたり、掃除をすると 枝葉や泥の中にある生きものが凍死してしまいます。

狭い場所に貴重種がひしめきあって暮らしているのが谷戸の水路です。わずか数メートルで水路の環境が変化するので、手入れの考え方も変えた方が丁寧な対応ができます。

次回は、生態系保全班で実際に行っている手入れの方法を、場所別に紹介します。

谷戸の裏方⑭ ～勉強会～小段谷戸の田んぼ作業～

十数名いる当会の事務局員は、毎月勉強会を行っています。保全作業の根幹となる冊子『かまくら・山崎 谷戸と暮らし』の読解に始まり、谷戸を歩いて四季の動植物を覚えるなど、内容は多彩です。谷戸を守るためには作業をしっかりと身に付けることも大切です。田んぼ作業は、小学生の体験学習を行う小段谷戸の田で実習をしています。

今年も、くろつけ、しろかき作業とともに、水路の管理などについて熟練のリーダーが指導を行いました。おかげで新しい事務局員もすっかり上達してきました。慣れない子どもたちがよりよい体験学習ができるために、創意工夫を凝らした案も生まれてきます。次世代へ向けた気持ちも自然に学んでいます。



